



名古屋NGOセンター ● 会報
NGO=Non Governmental Organization

vol.115

2017.5 (年4回発行)

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



名古屋NGOセンターのオフィスは、都心の栄にある「YWCAビル」の7階です。
お近くにお越しの際はお立ち寄りください。

CONTENTS

特集

はじめてみよう！ 太陽光発電

NGOトーク

団体とボランティアをつなぐ情報誌「ボラみみ」

(特活)ボラみみより情報局 理事 大田 哲嗣さん & (特活)名古屋NGOセンター 理事 山崎 眞由美

特集

はじめてみよう! 太陽光発電

先進国を中心に太陽光など自然エネルギーを使った発電が注目を集めて久しい。しかし、自然エネルギーによる発電はむしろ途上国で高いポテンシャルを持っていることをご存知だろうか?今号のさんぐりあでは、小規模な太陽光発電システムに焦点をあて、ソーラーパネル作りを援助のプログラムに取り入れている団体の取り組みを紹介する。また、ソーラーパネルでの発電システムのしくみや、途上国における太陽光発電の普及について取り上げる。ぜひ今後の活動の参考にしてほしい。

ニカラグアの会のソーラーパネル事業

●途上国での再生可能エネルギー利用について、エネルギー自給の面からも、またビジネスの面からも注目を集めています。ニカラグアの会では、早くからソーラーパネル事業を立ち上げていますが、どのようなきっかけで始めたのでしょうか。

伊藤:ニカラグアの会ではもともとニカラグアの青少年や女性が経済的に自立できる力を身につける職業訓練も合わせた成人女性学校の支援を行っていました。ソーラーパネルに可能性を感じたのは、2008年頃にアルシュさんが行った手作りソーラーパネルの講習会に参加したことがきっかけです。

私たちが支援しているエステリ県を含むニカラグアの北部は山岳地帯で電線が引きづらく、未だに電気が通っていない地域が多いです。また電気が通っている地域でも、電気はコスタリカのような隣国から輸入している面もあり高価で、停電も多いのです。自分たちでソーラーパネルを作って取り付ければ、電気の自給自足ができるのではないかと考えました。

●2008年といえば、アメリカのオバマ大統領(当時)がグリーンニューディールという言葉を使って環境技術への投資を促し、世界的にも技術革新が活発になった頃ですね。これまでどのような成果を上げていますか?

伊藤:私たちが支援しているスペレモスという現地の団体が運営している学校にソーラーパネルを取り付けました。最初は私たちが現地に赴いてソーラーパネルの作り方をレクチャーしましたが、今は現地の人に講師をやってもらっています。ソーラーパネルによって街灯、蛍光灯、ラジオを使うことができている。また蓄電すればテレビの観賞にも使用できます。ソーラーパネルをつけたおかげで、生徒が夜間に学習することも可能になりました。また、ちょうどソーラーパネルの作り方講習会を行っているときに停電が起き、パネルで蓄電した電気を使ってしのいだということもありました。

●色んな成果があったのですね。逆に、ソーラーパネル事業を行うにあたって課題となっていることは何でしょうか。

伊藤:課題はいくつかあります。まずは価格面です。ソーラー

伊藤 幸慶さん
ニカラグアの会事務局長
名古屋NGOセンター副理事長



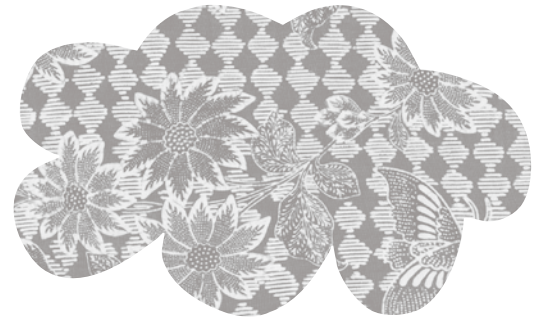


ソーラパネル製作講習会。ハンダづけして最後の仕上げ!この後にラミネートをかけます!

パネルがいくら安いとはいえ、ニカラグアの人にとってはまだまだ安いものではありません。パネル自体もそうですが、バッテリーも高価です。4～5年ごとにバッテリーの交換のときにお金が続かずに太陽光発電そのものを辞めてしまうというケースも散見されます。せっかく取り付けたのにもったいないことですよね。かといって、寿命の長いバッテリーはさらに高価なので、なかなか手が届きません。

それから当初の計画として、ソーラーパネルの設置や普及だけでなく、パネル作成やメンテナンスの技術者を育成し、支援地の電化と雇用の創出の一助になればと思っていたのですが、なかなか思うようにいきませんでした。世界的な再生可能エネルギーの普及により、市販のソーラーパネルの価格が下がっているのです。それ自体は良いことなのですが、手作りするメリットはかなり小さくなり、パネル作成技術を仕事にすることは難しくなりました。

最後に、現地の人にもっとソーラーパネルをつけることの利点を分かってもらいたいです。私たちがこの事業を始めた頃よりもニカラグア国内での再生可能エネルギーについての認知度は上がっていますし、政府も普及に力を入れているようです。日本のODAを通して投資したメガソーラーの計画もあります。また、実はニカラグアは地熱発電のポテンシャルもありますが、実現するためには莫大な予算が必要なので実現には至っていません。ニカラグアでは、マナグア湖の汚染や伐採による森林の減少など環境破壊が問題になっていて、環境意識も以前よりは向上しているように感じます。しかし、まだまだソーラーパネルを使った自家発電の便利さや環境への負荷の少なさなどの利点を周知する余地はあると思います。



ソーラーパネルを屋根に設置



●最後に、国際協力NGOが再生可能エネルギーの分野で活動することについてお聞かせください。

伊藤: エネルギー問題は経済発展や生活の質向上のために考えなければならない問題ですが、なかなか日本の小規模なNGOでは手出しづらい分野なのかもしれません。世界的には太陽光・太陽熱とともに風力発電も注目されていますが、小型のものでない限りNGOが介入することは資金的に厳しさを感じています。その点、手作りソーラーパネルなら参入障壁は低いので、ぜひ多くのNGOに取り組んでほしい分野だと思います。

(担当:加藤)

伊藤さんは、太陽電池をご自宅でも活用しているそうです。
シェーバーや草刈機などちょっとしたことに使っているとか。ご自宅を訪問してお話を伺いました。

●電気に詳しくなくても使えるのですか？

最近増えてきた屋根の上に載せるタイプは電力会社の家庭用100Vの電線に接続するものが多く専門的な知識が必要ですが、私のように完全に切り離して使うのなら専門的な知識は必要ありません。

この太陽電池は実際にニカラグアで設置したものと同じもので40Wです。まる1日太陽に当てて充電すると電動草刈機を20分動かすことができます。

●ずっと疑問だったのですが、太陽電池は直流なのにどうして交流100Vの電化製品が動くのですか？

太陽電池が直流で少しずつ発電した電気をいったんバッテリーに貯めておくのです。そのバッテリーから直流12Vを交流100Vに変換する装置(DC-ACインバーター)につなげます。複雑な装置ではなく、自動車のシガーソケットに差し込んで交流100Vに変換する装置なので、カーショップで簡単に手に入ります。

●ということは、夕方や曇りの日は電圧が60Vしか上がらないということにはならないのですね(笑)。

その通りです。太陽光による発電が少ない天候の時は、バッテリーにあまり電気が貯まらず、早く使い切ってしまう。それだけです。



●配線がとても簡単で驚きました。つなげるだけなのですね。

そのとおりです。5W程度でしたら1万円程度のできるのみならずやってみてはいかがでしょう?「1万円のできる!ペランダでできる!独立太陽光発電所の作り方」(中村昌広著 総合科学出版 2015年)が参考になります。

●ありがとうございました。

(担当:丹羽)

太陽電池



チャージコントローラー

太陽電池とバッテリーの間にチャージコントローラーをつなぐ。過充電を防ぐ役割があり、これがないととどろん充電してしまいバッテリーが破裂してしまう。2,000円程度。

電動草刈機などに使っています。



バッテリーからの直流12Vを交流100Vに変換する装置。これもカーショップで売っている。2,000円程度。出力側はコンセントなので使う電化製品との接続も容易。

バッテリー



太陽電池で発電した電力はいったんバッテリーに貯めておいてそこから使う。カーショップで売っている自家用車用のバッテリーを使います。3,500円程度。



DC-ACインバーター



途上国における再生可能エネルギー 利用状況について

太陽光をはじめとする再生可能エネルギーは、化石燃料や原子力などの環境負荷の大きいエネルギー源に代わるエネルギーとして世界的に重要なエネルギーとして認識されつつある。特に電力分野において、積極的な導入政策や技術革新、価格競争、エネルギー安全保障、環境への配慮、発展途上国におけるエネルギー需要の増大などによって急速に普及している。再生可能エネルギーの利用を世界的に牽引しているのはドイツなどヨーロッパ諸国であるが、近年では発展途上国や新興国における普及がめざましい。2015年には発展途上国における再生可能エネルギーへの投資が、はじめて先進国でのそれを超えた。これらの地域での急速な経済成長を下支えするためのエネルギーインフラの整備が急がれるなか、メガソーラーや大規模な地熱、水力、風力、バイオマス発電所に投資がされている。

一方で、再生可能エネルギーの可能性は集中管理による大規模な電力インフラのみでなく、むしろ農村部や各自治体における分散型の小規模な発電において発揮される。つまり、

電力の自給自足である。世界人口の17%にあたる約12億人が無電化地域で生活しており、そのうちの多くはアジア太平洋地域とサハラ以南のアフリカ地域に住んでいる。例えばバングラデシュは世界最大のソーラーホームシステム(SHS)¹の市場であり、またケニア、ウガンダ、タンザニア、中国、インド、ネパール、ブラジル、ギアナなどで小規模な自然エネルギーの自給自足システムの普及が進んでいる。このような送電線網や発電インフラの整っていない地域において、これらを先進国並みに整備するためには莫大な予算と時間が必要である。しかし地域分散型の小規模な発電装置であれば低予算で各家庭や村落単位で設置が可能である。したがってこのような小規模な発電装置は、住民の生活の質を直接向上することができる装置なのである。

¹ ソーラーホームシステム(SHS): 無電化地域で使用する小型の太陽光発電システム。前ページで取り扱ったニカラグアの会の取り組みもこれに含まれる。

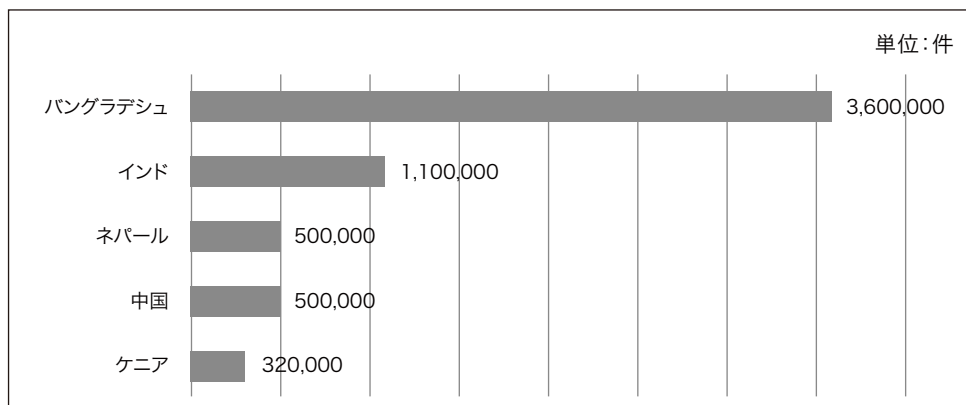
(担当: 加藤)

途上国における分散型自然エネルギー導入の例

ソーラーホームシステム(SHS)	
メキシコ	太陽光発電導入量の80%が小規模SHS
ペルー	50万件のSHSを導入する事業が2015年に落札
ケニア	30万件以上のSHSが導入されて年間3万件のSHSが売られている
バングラデシュ	人口の10%がSHSの恩恵を受けている



ソーラーホームシステム導入数の上位5カ国 (2014年末)



グラフ出典および参考資料:
認定NPO法人
環境エネルギー政策研究所(2016)
「自然エネルギー世界白書2016 日本語版」

NGOトーク
理事が聞く

第50回

団体とボランティアを
つなぐ情報誌「ボラみみ」(特活)ボラみみより情報局 理事 大田 哲嗣さん &
(特活)名古屋NGOセンター 理事 山崎 眞由美立ち上げた
きっかけは？

山崎 この「さんぐりあ」は1,000部発行していますが、月刊「ボラみみ」は1万部発行しているそうですね。市民活動やボランティアに興味がない人も一度は見かけたことがあると思います。

どのようなきっかけで始めたのでしょうか。

大田 私が高校3年生の頃に福祉関係のボランティアサークルをしていて、現代表の織田元樹と知り合いました。私たちの団体が、札幌で発行されていた「ボラナビ」というボランティア情報誌に紹介される機会がありました。その「ボラナビ」にはいろいろなボランティア情報が載っていて、コンビニなど普段よく行く店に置かれていました。こんな冊子が愛知にも必要だと思いました。そして1999年に織田と私を含む4人で「ボラみみより情報局」を立ち上げて、2000年に創刊号を発行しました。以来私は福祉施設に勤務しながら理事としてボラみみを運営しています。

山崎 労力を提供したりモノを送るのがボランティアとされていた時代に、情報を扱ったというのがとても先進的な取り組みだと思います。置いていただけの場所を探すのも苦労したのでは？

大田 社会福祉協議会のような公的機関にはボランティア情報があるわけですから、そこにたどり着かない層に訴えたいと思いました。そのため地元スー

パーや高校・大学など1軒ずつ回ってお願いしました。市役所や区役所は最初は断られていたのですが、少しずつ実績が増えて置けるようになりました。現在は愛知県内を中心に700箇所以上に置かせていただいています。

山崎 ボランティアに関心が少ない方は、わざわざボランティア情報を探したりしませんよね。そういう層に読んでもらうって行動を起こしてもらうのはとてもいい考えだと思います。

ボラみみでも
ボランティアが活躍!

山崎 名古屋NGOセンターは中間支援団体なので、何かと何かをつなぐだけで財源はどこからもきません。ボラみ

みさんもボランティアで編集するにしても印刷費がかかりますが、無料で配布していますし紹介する団体から掲載料をもらうわけにもいきませんよね。収入はどうしているのですか？

大田 最初は織田が自分の貯金を崩して発行していました。次第に行政からも信頼されて事業を受託することができて、職員も雇用することができるようになりました。最初の5年は赤字でしたが、どんなに苦しくても10年は続けるつもりで基盤を作ったところ、市民活動センターの運営や企業からの受託もするようになりました。その企業は社員の社会貢献の場としてボランティアを勧めているものの、どの団体を勧めればいいのかノウハウがなかったので、場を作る事業を行いました。

山崎 企業との連携は参考になりますね。

大田 またボランティアの力も必要です。職員だけではボラみみを発行したり、事務局を運営することはできません。ホームページを作れる方とか、企業での営業スキルを生かせる方など、今では80人のボランティアさんが活躍しています。

新しいボランティアさんを受け入れるときは、しっかり面接をしてどういうことをしたいのか聞いています。最初は「何でもやります」という方が多いのですが、それぞれの社会経験、人生経験を踏まえながらやりたいことが明確になっていきますし、そういう経験が生けると活動が広がってきます。ボラみみを発行して



黄色の表紙の月刊「ボラみみ」



加盟団体の活動や思いを2ページにわたり紹介する「NGOトーク 理事が聞く」。ちょうど50回目となる今回のお相手はボランティア情報誌「ボラみみ」を発行するボラみみより情報局。名古屋NGOセンターとボラみみさんの事務局は同じ建物(名古屋YWCA)にあります。

おおた てつじ
大田 哲嗣さん

やまざき まゆみ
山崎 真由美



17年になります、メンバーの意見を聞いて冊子の内容を少しずつ変えています。前半の特集やインタビュー記事も、メンバーが興味のあることを自分たちの目線で作っています。

山崎 ボラみみさん自体がボランティア活動のモデルになっていますね。

てください」とか、「障害者の方と一緒に遊びましょう」とか、ボランティアに頼みたいことを具体的に書く応募が増えますね。

また、せっかく来てくれたボランティアが、以前からその団体に活動している方となじみずくに去っていくこともあるかもしれませんが、新しく来てくれた方を快く受け入れる雰囲気づくりが大切ですね。

山崎 出会いの場をボラみみさんがセットした次の、ちょっとやってみる「ちょいボラ」をどのように「本気のボラ」というセカンドステージに誘うのかが、団体の手腕の間われるところですね。応募すればどの程度載せてくれるのでしょうか。

大田 最近は大変多くの応募があり、全て掲載することはできません。「みみライン」というインターネット版ではいただいた情報を全て載せており、紙媒体のボラみみはそこからの抜粋になります。

りあ」も今号から名古屋NGOセンターのHPにPDFを掲載することにしました。ネットだと経費もあまりかかりませんし、特に若い世代になじみやすいというメリットがあります。紙媒体とネット媒体の使い分けはどうお考えですか。

大田 ネットはやはり積極的にアクセスしてもらいがあるので、紙媒体も継続していきたいと思います。一方「みみライン」は情報が新鮮ですし日付順に並んでいるので、応募するボランティアにとっても使いやすくなっています。[編注:原稿締切時点で登録団体484団体、ボラ募集73件掲載]。ボランティア側がスキルややりたいことを登録しておく団体からお誘いのメールがくる「スカウトメール」というサービスも行っています。

山崎 名古屋NGOセンターの事務局は名古屋YWCAビルの7階、ボラみみさんは6階と同じ建物です。以前のコンビ本陣の時も、その前の笹島の本田ビルの時も同じ建物でした。スタッフ同士よくランチと一緒にいくと聞いています。そういったところから情報交換やつながりが生まれると思います。今日はありがとうございました。

山崎 この「さんぐ

(記録:丹羽)

ボラみみでボラを募集するコツとは

山崎 これを読んでいる団体の方も、ボラみみでボランティアを募集した経験があるかもしれませんね。ボラみみに掲載してもらうとき、気をつけたいポイントがありますか。

大田 いつでも来てほしいというのが本音かもしれませんが、「常時募集しています」というより「〇月〇日のイベントをするのに人手が足りないので手伝っ

みみライン
マイクロソフト NPO協働プログラム2010助成事業
文字拡大 文字標準 文字縮小

みみラインとは ボランティア募集一覧 イベント開催一覧 ログインメニュー システム導入事例
協賛企業・団体 お問い合わせ 等

「みみライン」は、
『自分の興味・スキルが活かせるボランティアを探したい』という方と、
『ボランティアを募集したい』という個人・団体の方とを橋渡しするサイトです。

🔍 ボランティア募集 新着情報 新着10件(全71件) → 全件表示

- 【4/21.22 名古屋市中区】4/21・22 会報「さんぐりあ」 発送ボランティア募集!
- 【5/20.27 三重県多気郡】5月自然体験スタッフ募集
- 【第4日曜日 名古屋市瑞穂区】みんなで「音楽」たのしもう♪
- 【5/14・20、6/3・4 名古屋市熱田区】5月・6月 第28回堀川まつりのボランティア募集
- 【5/20・21・27・28 愛知県内】教育職志望者・子どもが好きな方必見! 子ども

🎵 ボランティアをやりたい方
🎵 ボランティアを求めている方
🎵 イベント告知をした方
🌸 ボランティア募集一覧
🌸 イベント開催一覧
📄 みみラインのお問い合わせ

[ケータイサイトはコチラ]

「ボラみみ」の電子版「みみライン」

団体概要

特定非営利活動法人 ボラみみより情報局

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6階
TEL : 052-228-7824 FAX : 052-228-7834
http://www.boramimi.com/
email:office@boramimi.com

N た ま の い ま

No.36



さかもと えり
Nたま13期生 坂本 恵里さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002年～2016年度までの14回で（2004年度はお休み）、研修を受けた方は204名。このうち、のべ116名のOB・OGがNGO・NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？第36回はNたま13期生、坂本恵里さんにお話を伺いました。

次の一步を踏み出すきっかけになりました

■Nたまを受講したきっかけは？

ちょうどお金のためだけに働くことに疑問を持っていたときにNたまのチラシを手に取りました。でも、NGOスタッフになりたいと思っていたわけではなく、すぐに受講はしませんでした。しかし、しばらくしても何も変わっていないことに気づき、竹内ゆみ子さんの「自分に何ができるのか、どう行動すればいいのか考え続ける。その中で自らの手で自分の答えを見つける」というチラシの言葉が響き、受講を決めました。

■受講してよかったことは？

大人になってから、仲間ができたことです。また、「（前職の）経理事務での経験はNGOで求められていることだから、仕事につなげることができるかどうかはあなた次第ですよ」とNたま面接時に背中を押してもらった竹内さんに、修了式が近づいて次の行動を考えたときに、相談できる自分になれたことが大きかったです。新しい一步を踏み出すことができました。

■その結果が今の職場？

はい。竹内さんの勧めで今の職場である「地域の未来・志援センター」が主催する情報交流会に参加したことをき

っかけに、インターンとして関わり始めました。また同団体が運営する「なりわい塾」にも受講生として参加し、改めてNたま受講中に興味を持ったことでもある「これからの生き方、社会の在り方を考える」機会になりました。今の職場は、環境系のNGO/NPO団体を支援する団体。事務仕事も好きなので、ここで働きたいと思えるようになりました。

■今後の目標はありますか。

「豊森なりわい塾」の修了レポート『X年後の私』では、5年後には田舎に移住をして「ていねいな暮らしを自分の手で創りたい」と書きました。元々田舎出身ということもありますが、都会にしていると自分の住んでいる地域のコミュニティとの関わりが薄く、足元が不安定な感じがします。田舎暮らしは、人と人との関わりが密接で、煩わしいこともあると思いますが、それも大事なことだと思います。また、仕事を探していたときに、面白そうに感じた

仕事でも給料が安いと躊躇したのは、都会は家賃が高いから…。田舎にも都会とは違うところでお金がかかるけど、自分で自分の暮らしを創れるようになりたいし、お金じゃないもので価値をはかれるようになりたいです。

■最後に一言をお聞きすると…

「Nたまを受講して、一步踏み出すきっかけが得られたことがすごく大きかったです。自分がこうやって生きていく、と決められたわけではないけれど、前よりも自分の足で立てるようになった」とNたまを大絶賛。NGOへの興味・関心に関わらず、どう生きていくか悩んでいる方にもとてもぴったりの講座かもしれません…。

（担当：高橋）



会員団体さん開催のイベントにインターン生と参加



多文化防災ネットワーク 愛知・名古屋



災害が実際に起こったときに外国人を支援するだけでなく、外国人自身が支援者となって活躍できる防災ネットワークにしたいという思いを込めて、昨年暮れに発足した「多文化防災ネットワーク愛知・名古屋」(愛称「TABOネット」)は、個人でも団体でも会員として参加できる。より多くの方が会員として参加することで、多文化防災の輪が広がり、災害時にお互いが協力し合えるようなネットワーク作りをめざしている。1月8日にはオープン企画会議を開催し39名の参加者が、「つなげる」「つたえる」「つくりだす」の各ワーキンググループごとに今後の活動方針について話し合い、その後は各グループごとにミーティングを重ねている。各グループの主な活動は次の通り。

「つなげる」:TABO ネットから発信する情報の受け手(外国人コミュニティやキーパーソン)のリスト化をし、その先でどのくらいの人数に届きそうかを推定する。また作成したリストをもとに、活動地域や言語別に整理して見やすくする。

「つたえる」:外国人が興味を持ってくれるよう、非常食や防災グッズの使い方などについて、面白おかしく紹介した動画を作

成し、動画サイトで紹介する。動画に出演してくださる方を募集中。

「つくりだす」:クロスロード(災害時の対応についてのワークショップツール)多文化版を作成中。防災に関連した講演会とクロスロードを使ったワークショップを夏までに開催する予定。



防災グッズ紹介動画撮影中 youtubeで見られます

各ワーキンググループでの活動の他、多文化防災ネットワーク愛知・名古屋として、地域の防災イベントに参加して、災害時の外国人への対応についての情報発信をし、多文化防災の啓蒙啓発に努めている。防災イベントの情報、各ワーキンググループのミーティングの予定などに

ついては、随時facebookページにて紹介していくので、こまめにチェックして、興味のある方はメール、FAXなどで問い合わせをしてみてください!

Facebook:
<https://www.facebook.com/saigainet.aichi.nagoya/>
 E-mail:saigainet.aichi.nagoya@gmail.com
 FAX : 052-651-8806



(貝谷京子)

NGO ノウハウ集

第29回 団体の紹介文は 事前に準備しておこう



急に「〇〇字で近況を書いてください。」と頼まれることはないだろうか。何を書けばいいか、上手な文章が書けるか戸惑う団体も多いと思う。職員がいないボランティア団体ならなおさらのことだ。

実はこの「さんぐりあ」でもp15の「加盟団体だより」のページで寄稿をお願いしている。半ページなので文章700字と写真1枚だ。締切を1ヶ月後にしているのに「来月のイベントまで忙しくて書く時間がありません。」とか「あまり書くことがなくて、、、」と断られることがある。せっかくの広報の機会を逃すことになり、もったいないと思う。

そのためには「団体概要部分を頼まれる前に書いておく」のがいい。100字バージョン、400字バージョンの2種類作っておけば何とかなる。「200字で近況を。」と頼まれたら100字の

団体概要に100字で最近の状況を加えればいいし、「寄付のお願いを700字で書きたい。」と思ったら、400字の団体概要に300字で寄付金で取り組みたいことなどを追加すればいい。実際にそのように書いてある「加盟団体だより」を見かけるが、とても読みやすく仕上がっている。

事前に団体概要を書いておくことにはもう一つのメリットがある。メンバー内で文面を議論することで、自分たちがどういう団体で何をめざしているのか共有できるということだ。つい目先の業務に追われたり、自分の担当する業務しかわからないということになりがちだが、団体概要と一緒に作成することで、メンバーの思いが共有できるのだ。(ちなみにこの文章は690字です。)

(担当:丹羽)

なんじく りこめんず
NANGOC RECOMMENDS

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめるもの」情報をおよせください。e-mail:info@nangoc.org
 ※「NANGOC」とはNAgoya NGO Centerの略です。



実践的! スタディツアー学

スタディツアー研究会 編

桜井裕子の
オススメ

春、スタディツアーが開催されたばかりのこの時期、またこれから計画している団体にももちろん手に取ってほしい、スタディツアー研究会が20年の経験によりまとめたHow to本。NGOが企画・運営するスタディツアーの質の向上や、いかに成果あるものにするかに焦点をあてた。

本書によると、スタディツアー参加者は2000年代前半まで全盛期を迎えたが、近年のテロによる影響や民間旅行会社の参入（「ボランティアツアー」などの形で）により、下降傾向にある現状。この時期だからこそ、改めて考え直す機会になるのでは？受入コミュニティに与える影響は？参加者なのか、実施団体なのかで異なる。日本側⇄受入側でスタディツアー研究会による多方面の分析、それぞれが与える影響や関係性をまとめている。

旅行業法とスタディツアーの関係についても整理され、注意点がわかる。旅行業務を事業とし、報酬を得て継続に行う場合は旅行業にあたり、資格をもっていないNGOがスタディツアーを上記に該当する形で実施することは、違法であることがわかる。また、効果的な宣伝方法についての分析では、大学スタディツアーや旅行業者との良いパートナーシップが鍵だ。スタディツアーを続けることでNGO側から与える影響により、横のつながりも増えていきそうだ。



1,000円(税込)
2016年

ご購入・お問い合わせは
スタディツアー研究会まで。
<http://starken1997.jimdo.com/>



アフガニスタン用水路が運ぶ恵みと平和

企画:ペシャワール会 制作:(株)日本電波ニュース
朗読:吉永小百合 ナレーション:濱中博久

内藤裕子の
オススメ

ペシャワール会はアフガニスタンでの医療活動で知られるNGOだ。その中心となっている医師・中村哲さんは、病気や貧困の背景にある水不足を解決するために水路を建設していることでさらに世間の耳目を集めた。アフガニスタンの人々を苦しみの連鎖から解き放とうとする中村医師の信念と実行力に圧倒される。

DVDの構成は本編「緑の大地計画の記録」(30分)と技術編「PMSの灌漑方式」(35分)から構成されている。本編は中村医師とアフガニスタンの人々の水路にかかる情熱的な活動を中心に構成され、技術編は水路建設を自然と共生し現地の人々に維持可能なものにするために、日本の伝統的技術を採用したことを科学的に説明している。

人類の文明は灌漑農業とともに発展してきた。しかし現在、その文明の負の力が様々な形でアフガニスタンを苦しめている。中村医師は人類の智の本来あるべき姿をもって、それらに対抗しようとしている。がんばれ!私もできることをしよう。



2,700円+税



ベン&ジェリーズ

高橋里加子の
オススメ



「ブラウンシュガーブランディ」と「クッキーカーニバル」

1個348円+税
URL: <http://www.benjerry.jp>

私の母校の名城大学内のカフェ兼コンビニ「ラボカフェ」に、ベン&ジェリーズ(以下、ベンジェリ)のカップアイスが入荷した。専門店には東京にしかないが、東海地方では「ラボカフェ」の他に映画館TOHOシネマズなどに置かれている。

ベンジェリはフェアトレードのアイスクリームを中心に取り扱っていて、原材料の仕入れ先やお店の従業員、お客様など、全てのステークホルダーを大切に、全ての人が共存共栄できる社会をつくることを目的としている。ホームページには企業理念や使命、ミッションが細かく書かれている。

カフェでアイスが売っていることを教えてくれた後輩と一緒に早速頂いてきた。私が食べたのは「ブラウンシュガーブランディ」。キャラメルフレークがゴロゴロ入っていて、ボリュームたっぷり。大満足だ。他にも色んなフレーバーがあった。フェアトレードだと知らずに食べていた友人もいたが、せっかくなので、生産・流通の経路を意識して味わってみては。

「ラボカフェ」は名城大学研究実験棟II1階(名古屋市地下鉄塩釜口駅から徒歩5分)にあり、一般の方も購入できる。
(月曜～金曜 8:30～20:00、土曜 8:30～17:00)
またベンジェリが置かれているTOHOシネマズは、名古屋ベイシティ、東浦、津島、木曾川、岐阜、モレラ岐阜の6劇場。

Nたま生による自主企画。 テーマは「子どもの貧困」

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）では、研修の一環で『自主企画』が行われている。社会的課題を解決するため、チームに分かれて企画・実行・振り返りをするによりNPO・NGO活動の実体験をすることができる。今年はテーマを「子どもの貧困」に定めて行われた。

現場で取り組むということ

1つのグループは、コミュニティの支援をしたいという想いに至った。そして（特活）こどもNPOが、緑区の公営住宅の集会所で「子どもとつくる子ども食堂さばんなかふえ」を運営するボランティアを集めたいと考えていることを知り、そのための募集説明会や現場参加の機会を3回開いた。チラシを作成したりSNSで拡散するなど、広報に力を入れた。

私自身は、3回目の会に参加させてもらった。10時頃にNたま生やボランティアが集まり、こどもNPOのスタッフから子ども食堂の説明をしてもらい、調理を開始した。自然と集まってくる子どもたちがいた。12時頃に構内アナウンスが流され、食堂がオープンすると、コミュニティに住む様々な人が訪れた。大人は300円で、老若男女問わず受け入れていた。喫茶店勤務の経験

をもつ既存のボランティアさんがいることもあり、メニューは充実していた。ちなみに、食材は直接の寄付やフードバンクからもらうことが多いそうだ。食後も15時頃まで子どもたちと交流した。

その後、Nたま生、ボランティア、こどもNPOの運営スタッフで反省会が行われた。Nたま生からは、実際にやってみると紙の上とは違い、連絡の大切さや難しさなどが学べたという意見が出た。運営側からもボランティアへの応募者の把握などの連携不足の指摘があった。一方、現在新規ボランティアの受け入れに試行錯誤中で、運営側にとっても課題を見つけるきっかけになって良かったという意見も出た。

能力を活かして問題に関わる

他にも、1つのグループは、子どもの貧困に対してどのような支援があるのかをまとめた。その「支援集」は、名古屋NGOセンターのHP「中部NGO情報ひろば」に掲載されており、誰でもダ



ボランティアスタッフによる手料理

ウンロードできる。ひとり親家庭の方や、子どもの貧困問題に関わる可能性のある方に役立ててもらえればということだ。もう1つのグループは、児童養護施設への訪問を繰り返し、得意分野を活かし、アートセラピーなどを行った。

問題解決に向かって

Nたまの自主企画は、多様な人が集まり、短い期間で企画・実行しなくてはならないため、NGO・NPOでぶつかる様々な壁を経験することができる。ここまで実行を迫られる機会はほとんどない。せっかく実行したので、きちんと振り返りをして次に活かしてほしい。今後とも、このようなプログラムがきっかけで、個人が成長し、地域のNPO・NGOが活性化するきっかけになることを楽しみにしたい。

（担当：高橋）



修了式で自主企画をプレゼンするNたま生

ネットワーキング

企業とNGOの連携促進のためのシンポジウム開催

グローバル化された現代では多様化した社会問題が深刻化しており、NGOだけでは解決できない問題が多く存在しています。2010年に開催して以来6年ぶりとなった今回のシンポジウム(1月20日開催)では、東海地域の企業とNGO(加盟団体)の間で生まれた連携事業の3つの事例紹介などを行いました。出会いのきっかけや連携の進め方などを伺い、参加者には連携を進める際のヒントを持ち帰って頂くことができました。

事例紹介を通して、NGOが一方向的に企業から支援をしてもらうというスタイルではなく、連携によってお互いに有益になるということを強く感じました。また、質疑応答では参加者から様々な質問がされ、そのやりとりの中から参加者と登壇者も学ぶことができました。最後の交流会・名刺交換会では時間いっぱいに参加者同士が交流し、繋がりを作ることができました。

このような取り組みは首都圏では多く開催されていますが、東海地域では少ないのが現状です。企業とNGOの連携に関する情



ニチバン(株) × (特活)イカオアコの事例紹介

報がほしいという声を多く頂きましたので、このイベントを一過性で終えるのではなく、これが始まりとして、今回をきっかけにできた繋がりを基に、今後も東海地域で企業とNGOの連携を促進していくための勉強会やイベントを開催していきたいと考えています。

(報告:理事 松浦)

組織運営

組織全体の見直しに着手

名古屋NGOセンターは現在、組織全体の見直しを行っています。事業の増加と財政の膨張にもかかわらず、収入源である助成金や委託事業が縮小し、寄付も思うように集まらず、収支のバランスが崩れ、このままでは組織と財政の持続可能性が確保できない状況に立ち至ったからです。

以前に行った寄付金増額の議論が有効な方策を見出せずにいたところ、昨年9月の「名古屋NGOセンターの未来を考えようの会」の議論から、財政のみならず組織全体の見直しに着手するに至りました。これ以降、理事会と常任理事会は10回を越える会議を開き、事業の見直し、財政再建、組織の立て直しについての具体的な方策の検討を行ないました。

その結果、事業の拡大と多様化に伴って組織全体における位置づけが不明確となり、それぞれの事業が組織のビジョンや財政目標との整合性の議論を十分に行わないまま続けられてきたことが、現在の危機的な状況の背景にあることが明らかになりました。

当面の作業として新年度に向けて事業の見直しを行いました



2月25日に開催した理事会

が、大幅な削減はできませんでした。収支のバランスも不安定です。ここにもビジョンや財政目標との整合性の問題が顔をのぞかせています。したがって、新年度の理事会では事業と財政と組織のあり方を中長期的なビジョンのもとに見直す作業に着手することが重要な課題です。

(報告:理事長 西井)

活動報告カレンダー

2016年11月1日～2017年2月28日

●ネットワーキング

- ・横のつながりをつくる勉強会「バングラデシュへのお誘い!」開催(11/20)
- ・ワールドエコカレッジ「タイ・ネパール編」開催(1/15)、「ウガンダ・フィリピン編」(2/26)
- ・「企業とNGOの連携促進シンポジウム」開催(1/20)
- ・「スタディツアー勉強会&意見交換会」開催(2/3)
- ・名古屋市民活動推進センター主催「国際協力NGO入門」に協力(2/19)

●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員):【11月83

件】【12月94件】【1月82件】【2月98件】

- ・「中部地方ESD活動支援センター(仮)準備会議」出席(11/16)
- ・第2回相談員連絡会議出席(11/28-29、岡山)
- ・出張相談:「国際協力カレッジ」(12/3)、JICA駒ヶ根主催「信州グローバルセミナー」「草の根技協実施団体相談会」(12/18)、福井市総合ボランティアセンター「海外ボランティアを知ろう」(2/5)
- ・講師派遣:名古屋女子大学中学校(1/28)

●情報収集・発信

- ・会報「さんぐりあ」1月号発行・発送(12/16・17)
- ・(株)シーテックとの連携事業「ハートリレーキャンペーン(クリック募金)」が20,000クリック達成

		11月	12月	1月	2月
ホームページ	更新回数	11	18	4	5
	ビジット数	17,374	21,047	23,033	20,240
facebook	更新回数	20	19	14	16
	メルマガ	配信回数	13	13	10

新加盟NGO紹介

認定NPO法人アジア車いす交流センター(WAFCA)

過去17年間の活動でアジアの障がい児の現状を日本の多くの人々に伝え、困難な状況の中でも頑張っている子ども達を応援したいという方々の思いを、車いすと奨学金という形で届け、日本とアジアの人々との交流の架け橋として活動を行ってきました。これからも謙虚に活動を続けながら、障がいを持った子ども達にしっかりと寄り添い、皆さまと共に“WAFCAにできることは何か”を考えて行動していきます。皆さまからの一層のご支援を心からお願いいたします。

障がい児キャンプでのふれあい



●住所: 〒448-0834 愛知県刈谷市司町1丁目2番地
ふれあいプラザゆうきそう内

●TEL: 0566-23-5822 ●FAX: 0566-23-5827

●E-MAIL: ZC8WAFCA@denso.co.jp

●ホームページアドレス: <http://www.wafca.jp/>

●代表者: 榎田勝利

●連絡担当者: 秋山和豊

●対象国: 日本及びアジア

(現活動国: 日本、タイ、中国、インドネシア)

●活動分野: 障がい者、教育、国際交流

●年間予算: 45,000,000円

●開館時間: 10時～18時(休館日: 毎週火曜、年末年始)

●活動内容:

日本及びアジアの障がい者に対して、車いすの普及活動を通じて、障がい者が社会で自立できる環境づくりを行うと共に、スポーツ、教育分野に於ける支援、交流を通じてバリアフリー社会の実現に寄与し、社会全体の利益に貢献しています。

●関わり方:

イベント企画・参加、寄付、会員入会、ボランティア、ツアー参加など。

アルバイトスタッフ紹介

事務局側からNGO活動に関わる!

はじめまして。この度、名古屋NGOセンター事務局にて勤務することになりました堀川絵美と申します。今まで、チラシ制作やワークショップ、ファシリテーターなどなど、いろいろな形でNGOセンターにはお世話になってきました。(なので、「はじめまして」ではない方も…?)今までは、外から関わらせていただいていたいました。NGO団体の皆様の活動を知るにつれ、内側からも関わってみたいと思うようになり、一歩踏み出してみました。週3回(火水土)という少ない日数ですので、何かとご不便をおかけするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いたします。

ほりかわ えみ
堀川 絵美さん



リフレッシュのため2年間お休みいたします。

2002年の冬、「ボランティア説明会」というチラシを手に取り、名駅の暗い雑居ビルの3Fにある事務所を初めて訪問しました。「説明会」なのに参加者わずか2名、不安。。

しかし、それから、ボランティア→インターン(途中Nたま2期生)→職員として、本当にたくさんの皆さまにお世話になり、様々な経験をさせて頂き、あっという間に14年ほどが経ちました。2017年5月以降、お休みを頂くこととなりました。

お伝えしておりますとおり、名古屋NGOセンターを取り巻く環境の変化や財政状況など、悩みの深い時期ではありますが、引き続き皆さまのご支援、ご協力を頂きますよう、お願いいたします。

門田一美



●政策提言

- ・「第2回・第3回ODA政策協議会」出席(12/1@東京、2/23@福岡)
- ・「第2回・第3回NGO連携推進委員会」出席(12/13@東京、2/23@福岡)
- ・「第3回NGO-JICA協議会」出席(12/15、東京)
- ・「中部NGO-JICA中部地域協議会」開催(2/21)

●国際理解・開発教育

- ・「ワークショップラボ」①生物多様性(12/14)、②難民(1/25)、③食(2/8)、④ワークライフバランス(2/15)開催

●人材・活動育成

- ・「NGOスタッフになりたい人ためのコミュニティ・カレッジ」実施(11/9、11/18-20、11/29、12/11、18、1/12、14、19、28、2/11)
- ・「国際協力カレッジ」開催(12/3)
- ・東海地域NGO活動助成金の配分先が右の6団体に決定した(応募14団体)

●運営

- ・理事会(11/8、2/25)
- ・常任理事会(11/25、12/6、13、1/13、25、2/8)
- ・職員会議(11/8、15、12/7、20、1/24、2/28)

団体名	金額(計100万円)
セイブ・イラクチルドレン・名古屋	15万円
(特活)泉京・垂井	16万円
認定NPO法人アジア車いす交流センター(WAFCA)	15万円
(特活)日本ボリビア人協会	17万円
(特活)平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会	17万円
(特活)RASA-Japan	20万円

訃報：NGO世界の子どもたちを貧困から守る会 代表の廣田善吾さんが亡くなりました

NGO世界の子どもたちを貧困から守る会の廣田善吾さんがこの1月3日に亡くなりました。76歳でした。2月19日(日)には会のメンバーやかかわりのあった20人ほどで偲ぶ会が、名古屋市内のネパール料理店ヒマラヤキッチンで開かれました。

廣田さんがNGOに関心を持ったのは50代後半の頃。それまで広告業界にお勤めでNGOには全く興味がなかったそうですが、戦争や貧困を目の当たりにしてこの世界に飛び込んできました。



団体を立ち上げたのは2000年。以来「絵画作文コンクール」や、主にネパールのフェアトレード商品をバザーで販売するなど、貧困の現状を紹介する活動に取り組んできました。

「誠実でまじめで優しい人だった。」
「子どもたちの希望を失わせはしないという強い心があった。」
「でも飛行機に乗るのを怖がってなあ。」
「いまだに亡くなった気がしません。」

「言葉使いが丁寧で誰からも好かれていたと思います。」偲ぶ会ではそういった声が聞かれました。



廣田さんを偲ぶ会にて

廣田さんを偲んで

ワールド・コラボ・フェスタの常連として、いつも当会のブースにも立ち寄っていただき、ちょっとしたお話するのが楽しみでしたが、あの時が最期になってしまうとは。以前、事務所を開放して、地元の人々も招いて1日バザーのようなものをしてみたいと言われていたのに、それまでも夢となくなりました。これは名古屋名物だね!と手作りおにぎりをおいしそうに食べられていた光景が頭をよぎります。

会の名前が長いので、時々、「NGOチルドレン」を名乗られていたように、些細なことにこだわらないが、問題意識や活動方針をしっかりお持ちで着実な動きをされていた廣田さん。同じ事務所をシェアしていたため、メンバーの方といろいろと議論されている内容が聞こえてきた頃を思い出します。急に話を振られたこともありました。寂しさひとしおです。

(ニカラグアの会 伊藤幸慶)

嶋田ビル(名古屋市中村区)を活動の拠点にされていましたが、移転する予定です。電話090-8156-1014(坂部)
新たな連絡先は名古屋NGOセンターのホームページなどでご確認ください。

(担当:丹羽)

多文化共生リソースセンター東海

NPO法人多文化共生リソースセンター東海は、2008年に東海地域の多文化共生分野における中間支援組織として立ち上がりました。東海4県には、約160カ国から35万人もの外国籍者が暮らしており、生活上のさまざまな困難を抱えている人も少なくありません。一方で、通訳・翻訳や日本語教育、子どもの学習支援等、そうした人々のサポートに取り組んでいるNPOも数多くあります。

しかし多くのNPOでは、活動に必要な「ヒト[人材]・モノ[物資]・カネ[資金]・タネ[情報]」と言われる社会資源(リソース)が慢性的に不足しています。社会に必要な活動であるにもかかわらず、持続発展性のある組織運営が難しい状態。これは何とかせねば!そこで、東海地域で活動する多文化共生分野のNPO等のために、必要なリソースを取

集・整理し、提供する拠点(センター)として、多文化共生リソースセンター東海は誕生しました。

これまで、述べ500を超える団体との協働事業を通じて、東海地域の多文化共生社会づくりに尽力してきました。現在は主に、地域日本語学習支援、災害時外国人支援、発達に障害のある外国

人子弟の支援の3つを中心に、専門家や関係機関とのネットワークを構築しながら課題解決に取り組んでいます。これらに限らず、“多文化共生”にご興味・ご関心のある方は、お気軽にホームページよりお問い合わせください。また、2017年2月より事務所を栄(中区)から本陣(中村区)に移転しましたので、お近くにお越しの際はお気軽にお寄りください。



災害時外国人支援ボランティア研修

(土井佳彦)

NPO 法人
多文化共生リソースセンター東海

〒453-0041 愛知県名古屋市中村区本陣通 5-6-1 地域資源長屋なかむら内
TEL : 070-4114-6268 FAX : 050-3488-1414 E-mail: mrc-t@nifty.com
HP: <http://mrc-t.blogspot.jp/>

名古屋NGOセンター正会員(加盟団体)一覧

48の加盟団体が世界中で活躍しています。

- ・認定NPO法人 アイキャン
- ・認定NPO法人アジア車いす交流センター(WAFCA)
- ・公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)
- ・公益社団法人 アムネスティ・インターナショナル 日本“わや”グループ
- ・認定NPO法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク・東海
- ・あるすの会
- ・(特活)イカオ・アコ
- ・認定NPO法人 インド福祉村協会
- ・公益財団法人 オイスカ中部日本研修センター
- ・オヴァ・ママの会
- ・オリブジャパン国際開発協力協会
- ・GAIAの会(主活動=名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会)
- ・外国人入管手続研究会 IPAA
- ・(特活)キャンヘルプタイランド
- ・国際相互理解を考える会
- ・ココアゴラ Cocoagora
- ・(特活)沙漠緑化ナゴヤ
- ・スリヤールワ スリランカ
- ・(特活)泉京・垂井
- ・多文化共生サークル smile
- ・(特活)多文化共生リソースセンター東海
- ・(特活)タランガ・フレンドシップ・グループ
- ・(特活)地域国際活動研究センターCDIC
- ・(特活)チェルノブイリ救援・中部
- ・なごや自由学校
- ・公益財団法人 名古屋YWCA
- ・南遊の会
- ・ニカラグアの会
- ・一般財団法人 日本国際飢餓対策機構(JIFH)
- ・日本バングラデシュ友好協力会(JBCS)
- ・ハート・フォー・ザ・ワールド・ジャパン
- ・バングラデシュの人々を支える会
- ・バングラデシュ保育園の会(B.N.S.A)
- ・ピニンブラザーホッドトーカイジャパン
- ・フィリピン人移住者センター(FMC)
- ・不戦へのネットワーク
- ・認定NPO法人 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会 ピースあいち
- ・ベジャワール会名古屋
- ・認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構
- ・(特活)ボラみみより情報局
- ・(特活)まちづくりスポット
- ・認定NPO法人 ムラのミライ
- ・(特活)ル・スリール・ジャパン
- ・認定NPO法人 レスキューストックヤード
- ・ACF JAPAN アジアこども基金
- ・(特活)DIFAR
- ・(特活)NIED・国際理解教育センター
- ・NGO・世界の子どもたちを貧困から守る会

※(特活)は、特定非営利活動法人の略です。
(2017年3月31日現在)

会員・寄付者、協力者の紹介

(順不同・敬称略)

2016年11月1日～2017年2月28日

●賛助会員(個人)

【更新】：矢内淳、鉄井宣人、安藤誠、吉岡嗣晃、守屋保美、近田千枝、五十川有季子、海野香織、塚田涼子、高橋美穂、株根秀之、岩田知之、佐原恵津子、中島隆宏、奥田奈美、三田禮子、清水淳、吉田淳、加藤信一、馬場英朗、伊佐治歩、林滋、平尾秀夫、山内喜美子、加茂省三、中田健太郎、片岡功、白崎智大、前田康雄、三浦哲司、廣井修平、加賀美薫、兼松真梨子、藤井朋子、谷口千賀子、北村祐人
【新規】：西川侑里、貝谷京子

●賛助会員(団体)

【更新】：大府市国際交流協会、(株)シーテック

●寄付者(物品なども含みます)

後藤仁嗣、横山紀子、Nたま修了生、横のつながりを作る勉強会、桃井義博、野崎敏子、西川侑里、滝栄一、ACCJ/NIS中部ウォーカーズ、西井和裕、龍田成人、滝栄一、戸村京子、宗教法人真如苑、山崎眞由美

●寄付者(冬キャンペーン)

伊藤幸慶、加藤信一、赤羽一郎、名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会、滝栄一、松浦史典、柴田栄子、赤羽菊子、赤羽出、龍田成人、廣井修平、小久保紀子、水谷洋子、中島隆宏、横山紀子、藤井朋子、谷口千賀子、松井佳子、戸村京子、二角智美、佐藤玲子、北村祐人

●グッドゥ：9,322円/アマゾン・ヤフー：2,051円/楽天：732ポイント

●114号(2017年1月号)会報発送の協力者

下方タ子、西田文乃、岡村美里、ゆか、Baba O'Riley、ヒロコ、福元めぐみ、斉藤香里、小野木沙也加、八木章憲、西田愛奈、名田純哉

会員からのメッセージ

●鉄井宣人～学生時代にNたまに参加してから、あっという間に8年! 昨年は、講座の提供側として関わる機会をいただきました。現役生と向き合いながら、当時の自分を思い出すと恥ずかしいことばかりですが、こうして今の生活や活動があるのも、Nたまに参加したからだなあと改めて感じています。昨年は転職&転居もして、より自分らしく生きようと奮闘中～。

●高木雅成～振り返ると、20代の大半年をNGOセンターと過ごしています。出会って以降大切にしているキーワードは、持てる力。そして最近では、人と環境の相互作用。「人は環境によって弱くさせられる。元々弱い人なんていない。」30代を手前にし、先人たちが草の根を通して掲げる意志が、ようやく我が事になったと感じています。

事務局だより

●田口裕晃～名古屋NGOセンターの「顔」である門田さんの長期休暇。さびしくて堪らない。いつも隣りにいて、たくさん話を聞いてくれ、細やかな気遣いで、こぼれ落ちていきそうな仕事を拾ってくれた。時には見事な天然っぷりで和ませてくれた門田さん。帰ってくるのを心待ちに2年間踏ん張ろう。

編集後記

●加藤里紗～最近体調がすぐれず、何事に対してもやる気が出ない状態が続いていました。急げちゃダメだと自分を叱ったところで動かない体。困っていたところ、漢方が効くと聞いて試してみました。日々じわじわと快方に向かっています。同じ症状で悩んでいる人、ぜひお試しあれ!

2017年度の定時総会を開催します。

参加を希望される方は事務局までお問い合わせ下さい。

日時 2017年5月20日(土)
10時～12時半

会場 YWCAビル2階 201・202

なごや地球ひろば ボランティア地球案内人募集!

なごや地球ひろばでは、運営をお手伝いいただく「ボランティア地球案内人」を募集中です。ボランティアや国際協力に関心のある方、地元で気軽に国際協力に関わってみたい方、年1回の募集ですので、是非ご応募ください!

応募締切：5月19日(金)

※詳しくはなごや地球ひろばのウェブサイトをご確認ください



JICAボランティア 2017年度 春募集 応募受付中!

青年海外協力隊/
シニア海外ボランティア

5/10
(水) まで

★なごや地球ひろば 展示情報★

SDGs

—未来につなげる17の約束—

4/12(水)～6/11(日)
10:00～18:00

「なごや地球ひろば」
世界で育む学びのココロ

4月12日(水)～6月11日(日)
10:00～18:00

TEL: 052-533-0121 | FAX: 052-584-3751
http://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/

カフェ貸切 受付中

名古屋駅太閤通口から徒歩5分
(新幹線改札側)

少人数のセミナー、ワークショップ等のイベントでご利用いただけます

美味しいケーキと飲物付き
20名/13,600円(税別)～
15時～18時の内2時間
プロジェクト、Wifiあり
※最大30名 ※詳しくは電話にて

Glocal
Glocal Nagoya Hostel, Cafe and Bar

名古屋市中村区則武 1-21-3
11:00～23:00 (LOは22:00) 月曜定休
☎ 052-446-6694 (お電話でご予約承ります。)

グローバルカフェ

フェアトレード雑貨&コーヒービーンズショップ フェアビーンズ なごや地球ひろば店

★スタッフ募集中★

種木館カフェはフェアビーンズ直営のフェアトレード&オーガニックカフェです。大正時代の文化を今に伝えるこの空間で、私たちと一緒にカフェ運営して下さる方を募集しています! 火～日曜の中でシフトを組みます。勤務時間は応相談、通勤手当、無い有り。その他詳細は下記HP内左下の「カフェスタッフ募集のお知らせ」からご確認ください。お問い合わせはお気軽に♪

名古屋駅から南へ徒歩10分 JICA中部1F なごや地球ひろば内
営業時間: 10:00～17:00(火～金)、10:00～17:30(土・日)
定休日: 月曜日・祝日 TEL: 052-583-6480
フェアビーンズコーヒーオンラインショップ <http://fairbeanscoffee.net/>

発行：認定特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
編集責任者：丹羽輝明
会報編集委員：市川隆之、貝谷京子、加藤里紗、桜井裕子、高橋里加子、内藤裕子、村山佳江
協力者：廣井修平
レイアウト：久由紀枝
発行日：2017年4月21日
印刷：山本印刷株式会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
(認定NPO法人)
〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL&FAX: 052-228-8109 URL: <http://www.nangoc.org>
E-Mail(代表): info@nangoc.org